三郷学で構想するまちづくり
～参加と協働のまちづくり～

三郷市企画総務部企画調整課　田中　彰則
三郷市企画総務部秘書広報課広報広聴室　藤丸　譲司

1　はじめに

全国の自治体には、平成12年４月の地方分権一括法施行以来、これまで以上に主体性を持って自らの考えと行動により、まちづくりを進めていくことが求められている。また、市民ニーズの多様化やライフスタイルの変化が進む中で、コミュニティの希薄化と人口の減少・少子高齢という社会問題が生じている。

このように自治体を取り巻く社会環境が大きく変化している中、自治体は今までどおりの市民と行政との係わり方では、十分な市民サービスの提供が困難な時代となっている。

また、これら社会情勢の変化に対応し市民の納得度と地域力を高めていくためにも、市民、団体、企業、議会、執行機関等が自らの責務を自覚するとともに、参加と協働によるまちづくりを積極的に進めることが重要となってきた。そして、これらの課題を解決し住みよい魅力あるまちづくりを進めるためには、基本的な考え方やルールを定める必要が生じている。

さらに、三郷市では、「三郷中央地区」「ピアラシティ」「新三郷ららシティ」など新たな街開きが進むとともに、つくばエクスプレスの開業や東京外環自動車道三郷南インターチェンジ、常磐自動車道スマートインターチェンジの供用開始など、交通利便性が飛躍的に向上し、市を取り巻く環境も劇的に変化している。このような情勢の変化の中、三郷市は平成21年６月、市民共有の最高法規として、『三郷市自治基本条例』を制定し、平成22年３月に、『きらりとひかる田園都市みさと～人にも企業にも選ばれる魅力的なまち～』を将来都市像とする第４次三郷市総合計画を策定した。この総合計画における基本構想では、６つのまちづくり方針と４つの経営方針を施策の大綱に定めているが、この経営方針に、「三郷学の推進」が位置づけられている。また、前期基本計画には、特に先導的に力を入れて取り組む「リーディングプロジェクト」として、位置づけをした。

2　三郷学とは

自治体の自立性を高め住民にとって暮らしやすいまちづくりを実現するためには、市民と行政が新しい発想で考え決定し、行動することが必要となっている。三郷学は、三郷市をあらためて再認識し、三郷市にある資源「人・自然・地勢・産業・交通・歴史・教育・文化など」を学ぶとともに、三郷を取り巻く社会環境の変化をも見据えながら、三郷の歩むべき方向性を常に考え、実際に行動に移すための「三郷学」により、自治基本条例及び総合計画を着実に実現しようとするものである。

具体的には、

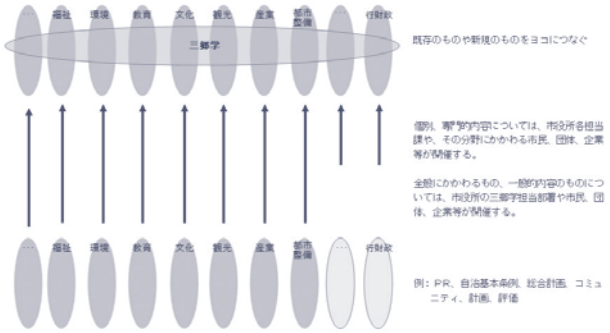
① 多様な主体が三郷市について自ら協力して学習・研究し、参加・協働していくため、“他分野”“多世代”の多様なまちづくりの担い手が交流する場を提供し、地域力の向上を図ること。

② 市民は、市政や三郷市の資源に対して深い理解力を持ち、市は、市民をはじめ多様な主体間の交流と参加と協働のまちづくりを担う人材を醸

成すること。

③　市民をはじめ、多様なまちづくりの担い手による三郷学の取り組み活動の裾野を広げ、これらの活力・連携により市民の夢を実現すること。がねらいとなる。

これまで、市民活動に携わる人や市が開催する講座などへの参加者の多くは、その人が関心のある分野に限られていた。この三郷学によって、“他分野”“多世代”の市民、市民活動を横につなげる交流の場を提供し、情報の共有、参加、協働につなげたいと考えている。



図「多様な分野をつなぐ」

3　これまでの取り組みと広報戦略

①三郷学の幕開け

～『三郷学フォーラム』～

平成22年２月「三郷学フォーラム～学習・研究そして参加・協働」を開催した。フォーラムでは、多くの市民の参加をいただき、自治基本条例及び総合計画（基本構想及び前期基本計画のリーディングプロジェクト）に位置づけられた「三郷学」がどのようなものか説明後、「三郷学への取組みに向けて」と題し、三郷市社会福祉協議会・みさと環境ネットワーク・三郷市商工会・三郷母子愛育会・三郷市青少年育成市民会議・（社）三郷青年会議所から日頃の活動について発表が行われた。その後、記念講演では、法政大学教授の岡崎昌之先生から全国各地のまちづくりの具体的な事例を紹介しながら「三郷学のすすめ」と題し、「まちづくりは地域を知ることから」「将来の構想は地域の歴史に立脚して」「地域の個性を土台に、少し大きな視点に立って、市外の方からも評価される取り組みを」というアドバイスがあった。集まった150名の参加者が大きくうなずく場面もあり、熱心に耳を傾けていた。また、フロアの参加者からは、「これからもこのようなフォーラム等継続的に取り組んでほしい」といった声もあり、「三郷学」は大きな期待のもと幕開けした。

三郷学を提唱する木津雅晟市長

記念講演する岡崎昌之先生

②これまでの取り組み

～『政策研究講座』～

平成22年６月には、市職員を対象に政策研究講座を開催。講座では、まちづくりを進める上で認識しておくべき基礎的な概念について理解を深めるため、「三郷市を再構成する～三郷学で地域と組織を〈つなぎ・ひきだす〉～」をテーマとして、龍谷大

学准教授土山希美枝先生から、（政策はだれのものか、政策主体の連携協力を）など、政策を策定するプロセスとして、「〈つなぎ・ひきだす〉能力の必要性」と「実りある対話・議論を進める上で参加者が守るべきルール」について学んだ。

③広報戦略

三郷学フォーラムで参加者にアンケートをとったところ、「三郷学にどのようにかかわりたいか」の問いに、「情報提供をして欲しい」や「三郷学の講座を受けたい」「何らかのお手伝いをしたい」などの回答が寄せられた。市民は、参加と協働のまちづくりに関心を持っていることがうかがえ、三郷学を周知し更なる市民参加を推し進めるためには、広報戦略が重要な役割を担ってくる。

そこで、どのようにまちづくりのパートナーである市民に三郷学を周知し誘(いざな)うかであるが、市には広報媒体として広報紙とホームページがある。広報紙は、情報量が限られるものの毎月１回、町会・自治会の協力を得て、ほぼ全ての世帯に配布している。一方、ホームページは、市民のみならず市外の方にも情報が発信できるだけでなく、情報の内容も紙媒体とは違い、三郷学の今までの取り組みから新しい情報までを掲載でき、見る側からも取り組みの状況がいつでも知ることができる。このことから市民と市政を結び、情報を共有することで参加と協働のまちづくりを促進するにあたり広報紙とホームページの二つの特性を活かしていきたいと考える。またこの他、市民の参加と協働のまちづくりの機運を盛り上げるために、新聞社等のメディアへの情報発信も忘れてはならない。

それでは、三郷学の周知にあたり広報戦略の具体的な取り組み状況を紹介したい。

まずは、広報紙であるが、広く市民に「三郷学」を知ってもらうことを目的に平成22年７月号に「ともに考えよう　三郷学のすすめ」のテーマで概要を掲載した。その後、更に三郷学に興味を持ってもらうために８月号から「シリーズ三郷学」を掲載し、「三郷学の視点」など毎回テーマをかえて内容を掘り下げている。１回目は、「現状を知る」をテーマに三郷市の方向性を探るきっかけを紹介している。そこでは、つくばエクスプレス三郷中央駅が秋葉原駅まで20分であることから、同様にJR山手線の東京駅や新宿駅などのターミナル駅から20分ほどのアクセス時間である吉祥寺駅や市川駅があるまちの課題を調べ、三郷市の状況と比較することで三郷市の特徴を浮かび上がらせることができるとしている。「シリーズ三郷学」では、決して答えを押しつけることは考えていない。その理由は、これを読んだ市民にも一緒に考えてもらうためである。

次に、ホームページであるが、市ホームページのトップページに「三郷学」のバナーをつくり、そこからフォーラムやワークショップに参加している市民に限らず、広く市民にも様子を伝えることができるようにしている。特に「まちづくりワークショップだより」では、講演の要旨や参加者の声を掲載するだけでなく写真を多く使いワークショップの様子を伝えるようにしている。多くの市民にも三郷のまちを知る、そしてまちづくりを考えていただくためのページでありたいと考えている。

三郷学を推し進めるため、三郷学の取り組み状況とフォーラムの参加者や市民の声を参考に発信する情報や発信方法など広報戦略をしっかりと検討し、三郷学を三郷のまちに根付かせたい。

4　いま、そしてこれからの取り組み

三郷学フォーラムに引き続き、平成22年度は、７月を皮切りに２月までの全６回コースの予定で『三郷学で構想するまちづくり』をテーマに、公募による市民20名と市職員16名計36名の参加者により、参加と協働を進めるためワークショップを開催している。

１回目のワークショップでは、「三郷学」の説明後、土山希美枝先生による《ひととつながる、力をひきだす～三郷市で〈つなぎ・ひきだす〉まちづくり》

をテーマに、「社会と市民と政策・政策はだれのものか・市民と自治体とまちのかたち」そして、対話や議論の必要性などを内容とする講演の後、参加者が６つのグループに分かれ、自己紹介や「三郷市がこんなまちになったらいいな！」というテーマで意見交換をしてワークショップの楽しさを実感した。

８月には、２回目のワークショップを開催し、議論の進め方やファシリテータの役割についての土山先生の講義のあと、実際にグループに分かれ、身近なテーマとして三郷市の資源『三郷市一番のお宝』について話し合い、地域の市民しか知らない隠れた三郷市の資源など議論した内容をまとめ発表した。また、各グループの議論の仕方について、他のグループが観察した評価と自己評価をグラフ化することで比較分析した。

３回目以降は、10月から２月までの間、『三郷学講座のカリキュラムづくり』、『政策形成ハンドブックづくり』を具体的に進めるワークショップで議論を重ねている。

ワークショップの成果を多くの市民に報告するとともに市民の声を三郷学に反映させるため、２月には『第２回三郷学フォーラム』を開催した。

5　おわりに

参加と協働のまちづくりを一層進めるためにも、今回作り上げる『三郷学講座のカリキュラム』や『政策形成ハンドブック』を大いに活用したい。また、「三郷学」を着実に一歩一歩進め、情報を共有し市民とともに考え行動し、『きらりとひかる田園都市みさと』を実現し、「人にも企業にも選ばれる魅力的なまち」づくりに取り組みたいと考える。そのような試みの中から、三郷の地域を担う地域公共人材が生まれるものと考える。